

## 10 「マネジメント手法による歯科保健指導」教育の取組み — 家族の口腔観察体験からの動機付け —

○本間和代, 小野真奈美, 渡邊美幸

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 歯科保健指導, 教育, 家族, 口腔観察, 動機付け

### はじめに

歯科衛生士業務の中の「歯科保健指導」は, 相手の生活行動を保健行動に変容させることを目的としている。遂行にあたっては, 歯科知識・技術を基盤に相手を思いやる心と言葉を駆使し, コミュニケーション・カウンセリング技法を活用して相手の心を動かすことが必要であり, 指導者の情熱と根気が求められる。学生はその業務の重要性を認識しつつも, 総合力を求められる当該科目の学習を敬遠する傾向にある。

そこで, マネジメント手法(評価-選定-特定-計画-実施-再評価)による歯科保健指導能力を修得させることを目標とした歯科保健指導に興味をもたせるための動機付けとして, 家族の口腔内観察体験実習を試みた。肉親の口腔内に関心をもたせ, 口腔保健の専門家を目指す者としての自覚を促し, 学習意欲を奮起させることを目的とした。

### 対象および方法

歯科保健指導関連科目の講義を終了した2年次の夏季休暇を利用し, 口腔内診査(齲蝕, 歯肉炎, 歯牙動揺度, 歯列, プラーク・歯石沈着等)を, 各種診査器具, ペンライトを用いて実施させた。終了後, 本体験の効果と家族の協力度を見るためのアンケート(対象者数と続柄, 検査項目の難易度, 肉親を対象とした実習の感想)を実施した。

### 結果および考察

学生が実施した対象者数は3人が51%と最も多く, 平均2.7人であった。続柄では母が30%と最も多く, つぎに父, 姉, 弟と続いた。96人中80人が母を, 56人が父の口腔内を観察する機会問いなった。また, アンケートでは, 診査が容易であったのは歯牙動揺度, 歯列不正,

清掃状態であり, 困難であったのは歯肉炎の有無, 補綴物・修復物の判断, 歯石沈着の有無などであった。相互実習ではクラスメイトの健康な口腔が対象であり種々の状態を見る機会がなかったためと考えられる。肉親を対象とした感想は, 図1に示すとおりであった。少数意見の中にも家族の協力が得られなかった空しさや歯科の知識の有無で口腔内に差があること, 人の行動変容の難しさ, 歯肉炎に気づかない人が多いこと, 歯科衛生士になる実感がわいたこと, 歯の健康は年齢ではなく環境であると感じたこと, 家族の為になって嬉しかったことなど多岐に亘った。

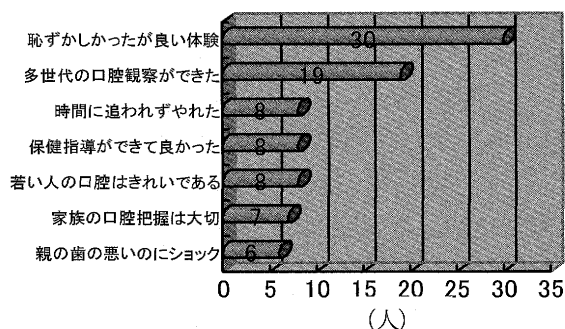


図1 家族を対象とした感想

### まとめ

本取組みから, 教員側の改善点として, 家族へのインフォームドコンセントや診査環境の整え方, 診査方法の訓練, 年齢に応じた口腔内変化の事前学習の充実などが上げられた。しかしながら, 学生は本体験を通じて, 学校での講義や実習だけでは得る事のできない多くの気づきと発見をし, 家族の口腔に関心をもつ良い機会となった。これより, 歯科保健指導の動機付けとして本体験実習は有効的であったと考える。